



「天気図のみかた」

下山紀夫 著

東京堂出版, 1998年9月

A4横版, 206頁, 定価5,200円

近年, 気象業務法改正の影響もあり, 従来気象関連業務関係者以外では接することの少なかった各種天気図類などの気象資料が, 一般でも入手できるようになってきている。現在, 気象業務支援センターで実施している FAX を用いた天気図サービスでは, 個人向けとしてはまだ高めの料金設定ではあるが, 気象情報の活用を考えている企業向けとして考えると, 容易に導入を図れる程度の料金設定となっている。この他にも, 多くの気象事業者より気象情報提供業務が開始されている。しかし, これら気象資料の利用方法に関する情報となると, 一般にはごく限られた範囲でしか入手することは出来ない。このため, 現在各種天気図類を入手していても, 記載されている情報を十分に活用しきれていない利用者が多いのではないだろうか。

本書「気象予報のための天気図のみかた」は, この問題に対する著者下山紀夫氏からのひとつの解答となっている。下山氏は気象庁で長年予報業務に従事され, 現在は気象庁天気相談所所長を勤められている。気象資料を予報官の立場からだけでなく, 気象庁外の利用者へ情報を供給する立場からも扱っておられる。この経歴のためもあってか, 本書は気象専門技術者の視点からまとめられただけでは無く, 一般の気象資料利用者の立場で資料活用のためにはどのような知識が必要かという視点からの配慮も感じられ, 初学者向けの優れた天気図利用マニュアルとなっている。

本書は大きく分けて2つの内容を持ち, 以下の7章で構成されている。第1章: 大気現象のスケール, 第2章: 天気予報, 第3章: 数値予報, 第4章: 気象衛星資料の利用, 第5章: 天気予報の作成手順。まず前半のこの5章で, 現在の天気予報作業がどのような手順で行なわれているか, 簡潔に説明されている。単に教科書的な説明に留まらず, 現在の気象予報作業で重要な役割を占める数値予報をどう取り扱うか, 有限な精度を持つ数値予報資料をどのように補正していくかといった点まで踏み込んで述べられている。第6章:

天気図等予報資料の解説, 第7章: 参考資料, 後半のこの2章が本書の主たる部分であり, 天気予報で使用されている天気図類, 各種資料類について説明されている。掲載されている天気図類は, 実況図15種類, 予想図15種類, 特定の目的のための天気図(波浪図等)9種類の合計39種類にわたっており, 短期予報の検討作業で使用されているものが主に取り上げられている。各天気図ごとの説明は(1)略号(2)記号およびその内容(3)解析のポイント, の3項目の編成となっている。特に「解析のポイント」は本書のもっとも魅力的な部分であり, 気象予報作業で気象資料を使用する際のポイントが分かりやすくまとめられている。天気図の記載事項の機械的な読みとり方法のみならず, 気象予報作業はどのような段階を経て検討されていくのか, 各段階ではどの天気図を使用するか, どのようなポイントに注目するべきか, といった点から説明されており, 天気図を読むことが目的ではなく, あくまでも気象予報のための手段であることが理解できる。天気図は平面上の情報であるが, それを通じてイメージしなくてはならないのは立体的な大気現象である。このため, 説明は個々の天気図単体の読取り方法だけでなく, 他種の天気図の内容との関連性にも配慮されている。これらの説明では, 定性的な内容だけではなく, 予報上注目すべき各特性値の具体的な値も判断指標として何点か示されており, 下山氏の豊富な予報経験を伺うことができる。

本書では, 一般へのパソコンの普及を考えてのやや目新しい付録が付けられている。4種の典型的な気象状況(冬型気圧配置など)ごとに二十点余りづつ合計約百点の天気図類がCD-ROMとして添付されており, 気象資料を容易に入手できない読者でも気象資料読解のプラクティスが計れる。このCDには天気図に関連するクイズなども含まれており, 面白い試みと言える。また, 下山氏が開設されているホームページでは本書内容の紹介がなされている。興味持たれた方はご覧いただきたい。

(URL: <http://member.nifty.ne.jp/tenkizu/>)

本書は気象情報を入手している, もしくは入手を考えている方には無条件でお勧めしたい。本書により気象資料の活用効率は確実に向上できる。気象情報を一般を対象に供給されている事業者でも, ユーザーに本書を推奨する価値は有ると思える。

本書の他にも天気図の見方に関する書籍は多数出版されているが, ほとんどは日本式天気図記号を用いて

作成された地上天気図の解説のみに留まり、本書に類する最新の内容を持つ書籍は非常に少ない。本書巻末の参考文献を見ると、約半数が「航空気象予報作業指針」等、気象庁内部を主対象と考えられる文献類となっており、本書の読者がより深い知識を得ようとしても、これらの一部の文献は容易に入手できないことが予想される。願わくば、本書に引き続きより多くの気象資料に関する書籍が発行されることを期待したい。

最後になるが、下山氏は本書の前書きの中で対象読

者を「基礎的な気象知識はもっているが、これまで天気図に接することが少なかった人たち」と述べられている。私は気象関連業務に携わる者ではないが、下山氏の想定された読者層に当り、今回、書評を書かせていただいた。教科書のための独学でしか気象学を学んでいない私は、本書から多くの啓示を受けることが出来た。良書をまとめられた下山氏に感謝したい。

(住友重機械工業㈱鉄鋼・機器事業本部 岡田暢夫)



第18回日本自然災害学会学術講演会のご案内

第18回日本自然災害学会学術講演会を下記のように開催いたします。講演者及び参加者を募集しておりますので、多数ご応募下さいませようお願い申し上げます。

記

期 日：1999年10月14日（木）、15日（金） 9～17時

場 所：東北大学工学部青葉記念会館

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉04

TEL：022-217-7993

講演申込：講演申込締切 7月9日（金）

原稿提出締切 8月20日（金）

原稿提出先：

〒980-8579

仙台市青葉区荒巻字青葉06

東北大学大学院工学研究科災害制御研究センター
内

第18回日本自然災害学会年次学術講演会事務局

源栄正人

TEL：022-217-6169

e-mail：motosaka@struct.archi.tohoku.ac.jp

参加費：3000円（講演要旨代含）

第36回自然災害科学総合シンポジウムのご案内

第36回自然災害科学総合シンポジウム（自然災害総合研究班、京都大学防災研究所共催）及びオープンフォーラム「キャサリン台風、アイオン台風から50年—水災害の変遷を考える—」（主催：日本自然災害学会、共催：自然災害総合研究班、東北大学工学部）を開催いたしますので、多数ご参加下さいませようご案

内いたします。

期 日：1999年10月16日（土） 9時～17時

場 所：東北大学工学部青葉記念会館

〒980-8579 仙台市青葉区荒巻字青葉04

TEL：022-217-7993

参加費：無料